

☆ 大河ドラマ『八重の桜』いよいよスタート！新島八重特集号 ☆



会津図書館一般室フロア展示コーナーでは「新島八重関連資料パネル展」を開催中です。幕末の会津若松城下絵図や山本家の系譜、籠城中の八重の行動がわかる絵図と資料、戊辰戦争後八重一家が米沢に寄留（他家に一時的に身を寄せて住むこと）していたことを示す資料、晩年の八重の肖像写真、直筆の和歌短冊など図書館所蔵資料をパネルで展示しています。

ご自由にお持ちいただけるパンフレットや新島八重関連図書リストもございます。ぜひご利用ください。

昭和三年、八重は松平勢津子（節子）と秩父宮のご成婚をお祝いするため、八十三歳という高齢にもかかわらず単身上京しました。左の写真はその際に日本女子大学で撮影されたものです。写真裏には「女子大学際 南谷写真館 東京小石川豊川町 三年十月五日」と書いてあります。右の和歌は旧会津藩主松平容保の孫である勢津子姫が天皇家へ嫁ぐことで、ようやく朝敵の汚名が晴れた喜びを歌ったものです。

【右】八重直筆和歌短冊「御慶事をきいて」「いくとせかみねにかゝれる村雲のはれて嬉しきひかりをそ見る」



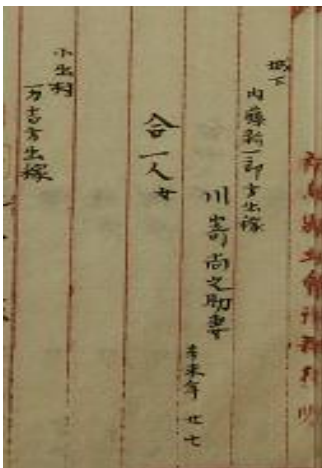
『元斗南藩貫属各府県出稼戸籍簿』

【右】「米沢」城下内藤新一郎方出稼 山本権八妻

（佐久）、姫（覚馬の妻うら）、孫女（覚馬の娘みね）、伯母 合四人女」

【左】「米沢」城下内藤新一郎方出稼川崎尚之助妻（八重） 合一人女」

明治三年（一八七〇）閏十月、八重一家は米沢城下内藤新一郎方へ身を寄せました。内藤は八重の最初の夫、川崎尚之助に砲術を習っており、その縁で八重たちは米沢へ向かったのです。翌四年（一八七二）覚馬から京都へ来るように連絡があり、同年八月三日八重、母佐久、覚馬の娘みね、伯母の四人は京都へ出発しました。覚馬の妻うらはこの時点で離縁し、一人斗南へ行きました。



◆ 新着資料 ◆

① 『八重の桜 1』

山本むつみ/作 NHK 出版 [099.3/イ/1]

大河ドラマ「八重の桜」の完全小説版。八重の幼少期から最初の夫川崎尚之助との結婚までを描く。

※全4巻。第2巻は3月刊行予定です。

② 『維新銃姫伝』

藤本ひとみ/著 中央公論新社 [099.3/フ]

『幕末銃姫伝』の続編。会津藩降伏開城から新島襄との結婚まで、激動の時代を生きた八重の美しき生涯を描く歴史長編。

③ 『新島八重を歩く』

星亮一十戊辰戦争研究会/著 潮書房光人社
[092.8/二]

故郷・会津の史跡、夫・新島襄と過ごした京都、最初の夫・川崎尚之助の晩年の足跡など、各地に埋もれた史実を掘りおこして紹介する。

④ 『八重と新島襄』

保阪正康/著 毎日新聞社 [092.8/二]

同志社大学出身のノンフィクションの第一人者が描く新島襄と八重の人生の軌跡。巻末に著者と同志社総長・大谷實氏との対談を掲載。

⑤ 『ラストサムライ山本覚馬』

鈴木由紀子/著 NHK 出版 [092.8/ヤ]

会津藩の軍学者から同志社創設者、京都府顧問へ。地方の発展に尽くした覚馬の姿を描く評伝。『聞はわれを阻まず山本覚馬伝』の改題・改訂版。

※新島八重関連図書を集めたコーナーもごさいます。ぜひご利用ください。

★ティーンズコーナー担当者おすすめ本★

『おかあさんとあたし。』

k.m.p ムラマツエリコ なかがわみどり /著 2000.12 大和書房 [Y726.5/ム]

何かのときにふっと思い出すこども時代の自分。おかあさんと一緒に当たり前だったあの頃。自分の知らない自分。ページをめくるたびに懐かしさと新しい感動が込み上げてきます。

少し大人になった人、すでにおかあさんになった人へもおすすめの愛情あふれる本です。



『こども東北学』

山内明美/著 イースト・プレス 2011.11 [Y212/ヤ]

人が生きるといことはすなわち食べることにほかなりません。大地や海の恵みのおかげで過去も将来も生かされているともいえます。

東北は、今まで何度もの地震や津波などで傷ついた土地であるにもかかわらず、日本人の食を担ってきた地域です。3.11の地震によって変貌したこの大地。この東北の未来は今後どう描かれるのでしょうか。私たちの住む地域について考えてみませんか。



朝日新聞データベース「聞蔵II」で新島八重の記事を読んでみよう！

明治12年（1879）朝日新聞創刊号から現在までの紙面から、日付・キーワード・分類などで約1200万件の記事・広告を検索し、当時の紙面イメージを見ることができます。

◆「新島八重」で検索⇒3件ヒット！

明治18年（1885）11月18日付 京都婦人愛隣会の幹事に選ばれる。当時40歳。

昭和7年（1932）6月17日付 八重死亡記事「新島襄氏未亡人逝く」

◆「山本覚馬」で検索⇒9件ヒット！

明治12年（1879）3月28日付 京都府議会議員当選

明治26年（1893）1月7日付 山本覚馬の関歴（覚馬の葬式の際に浜岡光哲が読み上げた小伝。浜岡は京都商工会議所会頭、衆議院議員等を歴任した人物。）